

2025 年 2 月 26 日 赤字箇所加筆・修正
2025 年 3 月 5 日 【8】総会について・加筆

2024 年 10 月 31 日

会員各位

日本農業経済学会

会長 安藤 光義

2025 年度日本農業経済学会大会のお知らせ

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。2025 年度日本農業経済学会大会は日本大学（神奈川県藤沢市）を会場として、対面形式で開催します。多数のご参加をお待ちしております。

[1] 日程および会場

2025 年 3 月 29 日（土）日本大学・湘南キャンパス 生物資源科学部本館大講堂

2025 年 3 月 30 日（日）日本大学・湘南キャンパス 生物資源科学部 1 号館→

生物資源科学部本館 NU ホール

〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866（最寄り駅：小田急江ノ島線 六会日大前駅）

<大会受付>

2025 年 3 月 29 日（土）日本大学・湘南キャンパス 8:30～受付（本館 4 階）

2025 年 3 月 30 日（日）日本大学・湘南キャンパス 8:30～受付（1 号館 1 階）

<大会スケジュール>

2025 年 3 月 29 日（土）日本大学・湘南キャンパス 生物資源科学部本館大講堂

開会・挨拶	9:00 ～ 9:05
会長講演	9:05 ～ 9:20
大会シンポジウム	9:20 ～ 16:15
総会報告・学会賞表彰	16:20 ～ 16:50
懇親会（Olivia オリビア・本館ギャラリー階）	17:20 ～ 19:00

2025 年 3 月 30 日（日）日本大学・湘南キャンパス 生物資源科学部 1 号館

個別口頭報告 9:00 ～ ~~15:00~~15:10

特別セッション ~~（応募数により設定）~~9:00～15:00

個別ポスター報告〔一般閲覧者への説明・対応〕 9:00 ～ 13:00

~~（プログラムにより変更の可能性あり）~~

個別ポスター報告〔賞選考委員への説明・質疑応答〕 11:00 ～ 12:30

ポスター賞授与式 ~~15:00～15:30~~15:20～15:50

[2] 参加登録・参加費

本大会への参加は、原則的に大会特設サイトを通じた事前登録制とします。参加申込の開始は、2025 年 1 月上旬を予定しています。詳細は学会 HP を通じてお知らせします。参加費等は下記の通りです。

大会参加費：正会員：4,000 円 一般：5,000 円 学生会員：3,000 円 名誉会員：無料
懇親会費：正会員・名誉会員：5,000 円 一般：6,000 円 学生会員：3,000 円

[3] 大会に関する問い合わせ

「日本農業経済学会事務局」 担当：齋藤・諏訪

〒104-0033 東京都中央区新川 2-22-4 新共立ビル 2F 株式会社 共立（内）

電話：03-3551-9896 Fax：03-3553-2047 E-mail: office@aesjapan.sakura.ne.jp

学会 HP: <https://www.aesjapan.or.jp/>

[4] シンポジウム（3 月 29 日 生物資源科学部本館大講堂）

1. 全体テーマ「新たな時代を迎える日本の食と農—ポスト新自由主義の食農経済論—」

座長：辻村英之（京都大学）

コメンテーター：立川雅司（名古屋大学）

第 1 報告：『食料・農業・農村基本法』の改正にみるポスト新自由主義の度合

—市民社会組織からみた評価—

池上甲一（近畿大学名誉教授/家族農林漁業プラットフォーム・ジャパン）

第 2 報告：新自由主義の食生活と農業食料貿易構造

—ポスト新自由主義フードレジーム形成の予兆の有無を探る試み—

磯田 宏（九州大学）

第 3 報告：生物多様性と食品企業経営—企業の社会的責任(CSR)から自然資本へ—

栗山浩一（京都大学）

第 4 報告：環境負荷低減と食料消費行動—未来における持続可能な消費を考える—

氏家清和（筑波大学）

2. シンポジウムの内容について

本学会は 101 年目の新たな時代を迎えたが、その分析対象である食と農についても、「食料・農業・農村基本法」改正における「食料安全保障」「合理的な（費用を考慮した）価格形成」「環境負荷低減」などの重視に、「小さな政府（規制緩和・民営化）」「自由競争／市場メカニズム」「グローバル化」を最優先するこれまでの新自由主義的な食農政策との異質さを確認でき、ポスト新自由主義の新たな時代を迎えていると考える。

そこで [第 1 報告] において、「市民社会の意見の政策形成への反映」をポスト新自由主義のあるべき特徴の 1 つと考えることから、まずは市民社会組織からみたポスト新自由主義農政の望ましいあり方について論じる。それは新自由主義が生み出した問題の克服をめ

ざすという意味での、ポスト新自由主義のあるべき特徴である。さらに基本法農政と改正基本法の比較を通して、基本法改正におけるポスト新自由主義の度合を論じる。

〔第2報告〕の最初の課題は、その新自由主義的な食農政策や、民間企業・消費者の新自由主義的な利益・効用追求行動によって構築されたフードレジーム（「工業的」「階級的」食生活と「世界農業化」を促進する農業食料貿易構造）の解明である。さらには、この新自由主義的フードレジームとの異質な傾向（農業食料諸関係に対する国家介入の強化など）を見出し、それをポスト新自由主義フードレジーム形成の予兆と位置付けられるか否か論じる。

また利益追求主体である「民間企業による生物多様性保全行動」も、ポスト新自由主義のあるべき特徴の1つと考えるが、〔第3報告〕はまず、CSR（企業の社会的責任）にとどまらず、自然環境（生物多様性）を資本として捉え企業経営の根幹をなすものと認識しないと、その保全行動が確固たるものにならないことを論じる。さらに、その自然資本認識の下でなされる自然資本の評価の方法や、食品企業による取り組みの進展について解説がなされる。

同じく、「環境負荷低減に貢献できる農産物・食品の生産・消費拡大」もポスト新自由主義のあるべき特徴の1つであると言えるが、〔第4報告〕はその消費者側に着目し、有機農産物・環境配慮型農産物・代替タンパク質食品の消費行動分析の結果を解説するとともに、明らかになる二律背反的状况（不自然な技術に対する忌避と環境負荷低減の志向）を踏まえ、持続可能な食料消費を実現する手がかりを導き出す。

これら4報告の成果に基づき、ポスト新自由主義の「あるべき特徴」（たとえば「市民社会の意見反映」と「予兆」（たとえば「国家介入の強化」）の乖離をどう埋めるか、ポスト新自由主義の食農政策・フードレジームの内容・特徴はいかなるものか、「民間企業による生物多様性保全行動」「環境負荷低減に貢献できる農産物・食品の消費拡大」を促進する課題を明示する、などの議論を展開する。以上のような、新自由主義が生み出した問題を乗り越えて持続可能なものにする、新たなポスト新自由主義の食農についての議論は、新しい時代を迎えた本学会の重要なミッションである。

[5] 個別報告（3月30日（日）生物資源科学部 1号館）

本大会では、①個別報告（口頭報告）、②個別報告（ポスター報告）、③特別セッションをそれぞれ募集します（特別セッションは、研究グループによる共通テーマの下、複数の研究報告と討論、および会場参加者との質疑を行う研究発表の場です）。ただし、筆頭での報告は、①②③をあわせて1報告に限られます。学会HPに申込要領等を掲載しているのでご覧ください（URLは下記）。受付期間は12/1（日）～12/9（月）17:00までとします。積極的な申込をお願いいたします。

<https://www.aesjapan.or.jp/meeting/148588>

[6] 大会期間中の保育室設置について

1歳児以上を対象とした保育室の設置を予定しています。利用を希望される方は、[3]に

記載した学会事務局宛に、利用希望日・時間帯・利用人員・年齢について、2025 年 1 月下旬までにご連絡ください。利用希望の状況がまとまった段階で、学会事務局より設置や費用負担について相談させていただきます。

[7] 今後のスケジュール

1. 個別報告・特別セッションの申し込み：2024 年 12 月 1 日（日）～12 月 9 日（月）17:00
2. 大会特設サイトの開設・参加申込の開始：2025 年 1 月上旬（予定）
3. 個別報告等のプログラム公開：2025 年 2 月中旬（予定）
4. 報告論文（和文誌）及び Research Letters（英文誌）の投稿要領掲載：2025 年 3 月 31 日（予定）

※投稿期間は報告論文：4 月 1 日～5 月 6 日、Research Letters：5 月 1 日～6 月 1 日を予定しています。

[8] 総会について

総会は下記の通り、メール審議とオンラインによる質問対応の併用にて実施されます。

1. 資料縦覧・投票期間 3 月 19 日（水）15 時（予定）～3 月 26 日（水）13 時
総会資料および投票フォームについては後日会員 ML よりお知らせいたします。
2. 質問対応期間 3 月 25 日（火）11～12 時（質問がなければ 11 時 30 分まで）オンライン会議にて、総会資料への質問対応をします。オンライン会議の接続情報は 後日会員 ML よりお知らせいたします。

以上

日本大学生物資源科学部までの交通アクセスご案内



<電車のアクセス>

小田急江ノ島線「六会日大前」駅から徒歩 3～4 分